

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

清川智之・山根恭道

1 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

2 研究方法

飼育担当者から持ち込み、または巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

年	月日	魚種	場所	疾病名・症状等
平成 11年	5月13日	ヒラメ	浜田～益田市	中間育成が開始される前に、魚病指導を行った。
	5月21日 6月3日	ヒラメ	仁摩～大田市	中間育成が開始される前に、魚病指導を行った。
	6～8月 の間	クルマエビ	栽培漁業センター	PADV 陰性(親エビ・稚エビとも検査したクルマエビはすべて)
	7月15日	ヒラメ	鹿島町恵曇	不明(斃死の主因となるような寄生虫、細菌等は確認できなかった)
	7月19日 7月28日	ヒラメ	大社町宇竜	不明(寄生虫、細菌等は確認できなかった)
	7月27日	トラフグ	鹿島町恵曇	白点虫(確認した翌日にはほぼ全滅)
	9月13日	エゾアワビ	鹿島町片匂	高水温による生理障害?
	9月20日 9月30日	トラフグ	鹿島町恵曇	輸送によるストレス(2回目は一部滑走細菌症が発生)
	10月12日 10月18日	トラフグ	鹿島町恵曇	白点虫(鰓まで侵入しており、致命的な状態)
	11月24日	タカサゴ	江津市	不明(鰓蓋裏の発赤などプリの連鎖球菌症様の症状がみられたが細菌は分離されなかった)
	12月14日	チョウチョウウオ	江津市	不明(体表・鰓には寄生虫が存在しない、また、細菌検査結果は陰性であった)
平成 12年	2月9日	トラフグ	鹿島町恵曇	ちょうちん病(水温の急激な低下に伴うストレスのため、体表に剥げた部分ができる。体表・鰓等に寄生虫は存在しなかった)